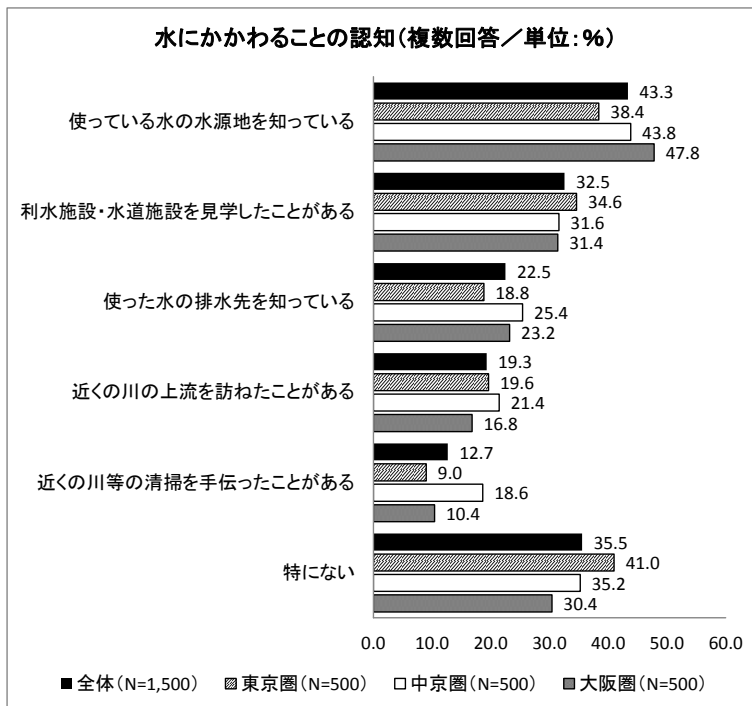


## Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？（5択+特にない）

### ◇4割超が「水源地を知っている」

水にかかわる事例を5つあげて認知・経験を聞いたところ、全体の4割超（43.3%）が「使っている水の水源地を知っている」と回答。次いで多かったのが「特にない」（35.5%）でした。

年代別にみると、「水源地を知っている」は20代（23.0%）、30代（35.3%）、40代（45.3%）、50代（53.0%）、60代（60.0%）と、年代が上がるほど水源地の認知が高く、「特にない」は60代（22.3%）、50代（26.3%）、40代（35.3%）、30代（45.0%）、20代（48.7%）と、年代が低いほど水に対して無関心な傾向がうかがえました。



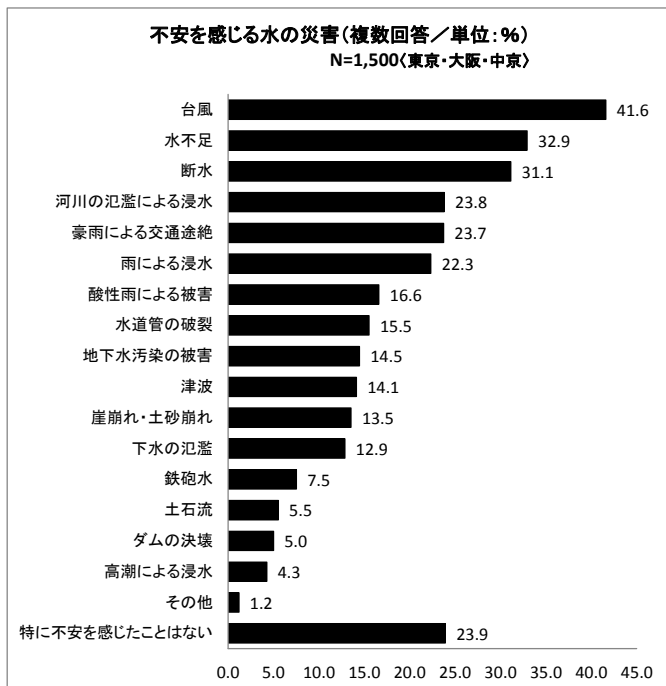
## 水と災害／東京・大阪・中京圏

### Q.不安を感じる水の災害は？（16択+その他+特に不安を感じたことはない）

#### ◇不安を感じる水の災害トップ3は「台風」「水不足」「断水」

#### ◇東京圏の5人に1人は「断水」が最も不安

「不安を感じる水の災害」について聞いたところ、トップ3は「台風」（41.6%）、「水不足」（32.9%）、「断水」（31.1%）で、「水不足」「断水」が上位に挙げられ、“水道水がなくなる”ことへの不安が高いことを感じさせた一方で、4人に1人が「特に不安を感じたことはない」とし、日頃の危機意識に不安の残る結果となりました。次に、「特に不安を感じたことはない」の回答者を除いて「最も不安を感じる水の災害」を聞いたところ、東京圏のトップは「断水」（19.0%）、中京圏では「河川の氾濫による浸水」「雨による浸水」がそれぞれ2位、3位と上位でした。東京圏は昨年の東日本大震災の影響による「断水」の被害を受け、中京圏は2000年に東海豪雨で被害を受けており、これらの経験がそれぞれの結果に表れたといえそうです。



不安を感じる水の災害トップ5（複数回答／単位：％）

	東京圏 (N=500)	中京圏 (N=500)	大阪圏 (N=500)
1位	台風 39.4	台風 46.8	台風 38.6
2位	水不足 35.4	水不足 33.6	水不足 29.8
3位	断水 35.4	断水 31.0	特に不安を感じたことはない 28.0
4位	豪雨による交通途絶 26.0	河川の氾濫による浸水 30.6	断水 27.0
5位	特に不安を感じたことはない 22.2	雨による浸水 29.0	河川の氾濫による浸水 22.8

※東京圏のみ「水不足」「断水」が同率2位

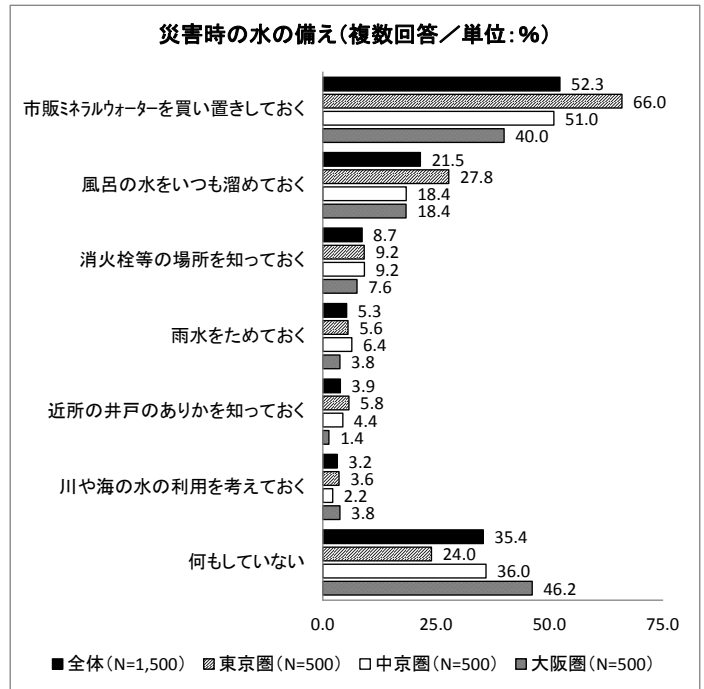
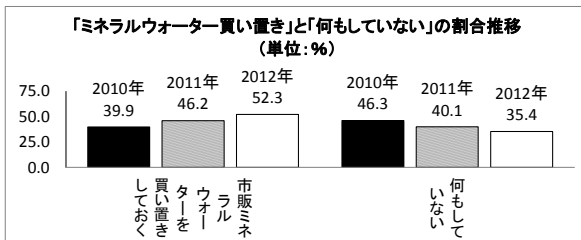
## Q.災害時の水の備えは？（6択＋何もしていない）

◇ミネラルウォーターの買い置きは東高西低！？東京圏では3人に2人

◇“備えなし”は減少傾向

「地震などの災害時に対する普段の水の備え」を聞いたところ、全体の半数以上（52.3%）が「ミネラルウォーターを買い置きしておく」と回答しました。特に東京圏では3人に2人（66.0%）と高く、中京圏51.0%、大阪圏40.0%と、西側に行くほど「買い置き」率は低くなるという東高西低の傾向が見られました。

一方、「何もしていない」は35.4%で、一昨年（46.3%）、昨年（40.1%）から減少傾向にあります。また、居住地別では、東京圏24.0%、中京圏36.0%、大阪圏46.2%と、こちらは西高東低でした。



## 日常の水意識／東京・大阪・中京圏

### Q.水の使い方は？（4択）

◇約6割は節水を意識も、若干低下の傾向

◇20代男性の約3割は「気にせずに使っている」

「家庭での水の使い方」について聞いたところ、「節水している（「多少節水」＋「かなり節水」）」は60.6%で昨年（62.4%）から微減、「気にせず使っている」と「気にしながらも何もせず」の合計が39.4%で昨年（37.6%）より微増と、大きな変化ではないものの、節水意識に若干低下の傾向が見られました。このところの関心事は、節水より節電なのかもしれません。

性別・年代別で見ると、「気にせず使っている」＋「気にしながらも何もせず」で男性48.4%、女性は30.3%と、18.1ポイントの差があったほか、20代男性は「気にせず使っている」が28.0%で断然のトップでした。

